

IEEE SIGHT・バンドン工科大学医工学研究科のジョイントシンポジウムで基調講演を行いました (2018/4/26)

テーマ：健康で災害に強い社会をつくるための eHealth と技術開発
会場：バンドン工科大学（バンドン、インドネシア）

2018年4月26日（木）にインドネシアのバンドン工科大学で開催された Institute of Electrical and Electronics Engineers, Special Interest Group for Humanitarian Technology (IEEE SIGHT) のインドネシア支部 eHealth and Telemedicine Indonesia とバンドン工科大学医工学研究科のジョイントシンポジウムにおいて、当研究所 災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の江川新一教授が基調講演を行いました。

このシンポジウムは世界最大の電気工学・電子工学技術に関する学術団体の IEEE 教育部門インドネシア支部、IEEE 社会実装部門インドネシア支部、インドネシア eHealth&Telemedicine 学会が協賛し、災害に強い社会における eHealth と技術開発をテーマにバンドン工科大学で初めて開催されたものです。インドネシアの国家防災庁、保健省、捜索・救助局、健康危機管理研究所、および近年になって情報集約が一元化された緊急対応チーム(119)からも参加があり、防災と健康に関して多面的な実務者、電子工学の技術者が一同に会する貴重な場となりました。

江川新一教授は「災害に強い健康な社会をつくるための研究と技術開発」と題して、防災の考え方、災害における健康被害の変化、仙台防災枠組、災害医療を理解するためのシミュレーションモデル開発について基調講演を行いました。シンポジウムは、バリ島のウダヤナ大学、西スマトラ島パダンのアンダラス大学ともテレビ会議システムを用いた中継も行われ、江川新一教授はバンドン工科大学の聴講者にアンサーパッドを用いたリアルタイム集計システムを活用した双方向性の講演を行い、高い評価(大変面白かった 54%、面白かった 33%、難しかった 13%、退屈だった 0%) を得ました。また、システムダイナミクス型とエージェント型のシミュレーションモデルを実際に動作させ、再現することの困難な災害における事象の検証ができることを示しました。

江川新一教授は国家防災庁、保健省、捜索・救助局、健康危機管理研究所からの代表とともにパネルディスカッションにも登壇し、防災の教育、研究と技術開発について活発な議論がなされました。グローバル災害統計センターのモデル国のひとつでもあるインドネシアで、国家防災庁は災害統計のより積極的な利活用を推進していること、健康危機管理研究所が各省庁からのデータを総合したデータベースの開発を行っていることも共有されました。バンドン工科大学と東北大学は大学間学術交流協定を結んでおり、今回のシンポジウムも含めこれからも活発な学術交流が期待されます。



講演する江川新一教授



情報工学、医工学、高校教諭などの多彩な聴講者



参加者との集合写真